

第二章

イロクオイ人の氏族

林 『起源』は、なかなか面白い本
 ..まずは全体的な内容をつかむと
 いうことで、坂井哲郎著『日本はどこ
 へゆくのか』の24頁に書かれていま
 す。

マルクスは1883年に亡くなり
 ましたが、エンゲルスはマルクスの膨
 大な遺稿の中に『モーガンの古代社会
 の研究』で、『資本主義生産に先行す
 る諸形態』を発見します。これを整理
 して、『起源』を書きました。「これは
 なかなか面白い本で、ぜひお読みにな
 る事をおすすめします」と書くほど面
 白い本かも知れません。

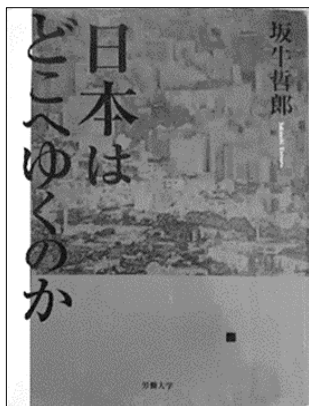
『日本はどこへゆくのか』には次
 のように書かれています。「人類は人
 種、地域の別を問わず、生産力の低い
 段階では、すべて原始共産主義社会で
 した。人間はその肉体を維持するのが

やつとで、搾取されるような剰余生産
 物を作り出すことはできなかったから
 です。大きな動物に対しては、男性集
 団で立ち向かい、殺した獲物の肉や皮
 骨は部落民平等に分配したのです。女
 性は主として植物の採取や動物の解体
 の作業に従事していました。集団が大
 きくなると、部落のしきたりや祭祀を
 取り決めるため、集落会議が行われま

した。(中略) 同一血族からなる氏族
 がまず成立し、特定の男女が家族を構
 成するまでには、長い年月を必要とし
 たということです。

当初は雑婚でしたが待遇婚に変化
 し、階級社会に至ってはじめて、一夫
 一婦制度が確立したのです。これは財
 産相続のため、子どもを特定する必要
 から生まれた制度ですが、母系から父
 系への歴史でもあったのです。長期に
 わたる原始共産主義社会をうちこわし
 たのは・・・(以下略)。

ここから原文に戻りますが、マル
 クス・エンゲルス全集第21巻で第三



章まではかなり長い文が続きます。

菊地…私も最初は、わかりませんでした。『日本はどこへゆくのか』に書いてあるのではないかと考えて、読んだら『起源』がいつの時代に書かれたものかが、良く分かりました。

イロクオイ族からの発見

司会…最初に、秋島さんからレポートお願いします。

秋島…氏族の古典的な形態として、イロクオイ族（セネカ部族）を取り上げています。この部族には、動物の名を付けた八つの氏族があります。

(一) 狼、(二) くま、(三) ウミガメ、(四) ビーバー、(五) 鹿、(六) しぎ、(七) おおさぎ、(八) 鷹。そして、各氏族では、次のような風習が行われていました。

- ①氏族は首長（戦争指揮者）を選出しました。選挙は男女全員投票。酋長は氏族自身の中から選ばれ、空位になるとすぐに補充されました。世襲的、前任者の息子が酋長に選ばれることはありませんでした。母権制が行われていて、息子は他の氏族に属していたので、権力は父長的で、精神的な性質のものであつて強制手段を持っていませんでした。戦争の指揮者は外部から選出。遠征時はちよつとの命令権だけでした。
- ②氏族とは軍事首長とを任意に罷免しました。
- ③氏族員は氏族の内部で結婚することは許されませんでした。このことが氏族の根本原則で、氏族を結合している紐帯（ちゆうたい）です。
- ④死亡者の資産は残り氏族員の手になり、氏族内のもつとも近い親族たちが分割して相続しました。夫と妻が互いに相続し合うことも、子が父から相続できませんでした。
- ⑤氏族員は互いに援助し防衛しあい、特に族外部の侵害に対する復讐に助力する義務を負っていました。
- ⑥氏族は全部族のうちで、その部族だけが使うことのできる、特定の名前を持っていました。
- ⑦氏族は族外者をその養子にし、彼を全部族に受け入れることができました。捕虜で殺されなかった者は、氏族への養子縁組で、セネカ族の部族員となり氏族権を取得しました。
- ⑧イロクオイ人の年6回行われる宗教的祭礼では、各氏族の酋長と戦時隊長は、その職務上「信仰の番人」に加えられ司祭的な機能を果たしました。
- ⑨氏族には共同墓地があります。
- ⑩氏族には評議会があります。成年の

男全員が平等の投票権をもつ民主的な会議。酋長と戦時首長を選出し、またそれを罷免しました。

すべての成員は自由人であり、互いに自由を守り合う義務を負い、個人的権利において平等でした。酋長も戦争指揮者も、なんら優位を要求せず、血の紐帯で結ばれた兄弟関係だったんです。

自由・平等・友愛は、定式化されませんでした。が、氏族の根本原理で、そしてこの氏族はまた全社会制度の単位、組織されたインディアン社会の基礎でした。

エンゲルスも驚いた制度

- ①目の領域と独自の名前。
- ②この部族だけ特有な特別の方言。
- ③氏族が選出した酋長と戦争指揮者を正式に任命する権利。
- ④彼らを罷免する権利。
- ⑤共通の宗教的観念と礼拝行事の存在。

⑥共通の事項の為の部族会議。

⑦部族には1人の最高酋長がいますが、その権利はきわめて小さい。

アメリカのインディアンの大多数は、部族への統合以上には進みませんでした。人数は少なく、広大な境界地帯によつて区分され、部族が少数の人数で膨大な領域を占拠していました。

近縁諸部族の連合体はあちこちで一時的な窮状から形成されました。

個々の地方では、諸部族が分裂状態から永続的な連合体へ結束し、民族の形成への第一歩を踏み出していました。連合体の最も発展した形態がイロクオイ族です。

彼らの到達した最も進んだ社会的組織を、示している連合体の基本的規定は、

- ①完全な平等と部族部内すべての事項での自主性を基礎としました。
- ②連合体の機関は連合体会議で、すべての問題を最終的に決定しました。

③連合設立の際、各種と氏族に割り当てられました。氏族は連合体の創立時部族と氏族に配分されました。

④各種族でも、種族評議会に議席と投票権を持っていました。

⑤連合評議会のすべての決定は、完全を必要としました。

⑥採決は種族単位で行われました。評議会の全員の賛成が必要。

⑦五つの氏族評議会の全員が評議会を招集することができました。

⑧議事は集合した人民の前で行われました。

⑨連合には、個人的な頭領、執行権力の「長」はいません。

⑩最高戦争指揮者がいました。その権限と権力は平等でした。

この制度に、エンゲルスは「なんと驚くべき制度であろう！ この氏族制度は！ 兵士も憲兵もない、貴族も国王も総監も知事も裁判官もない、監獄もない、訴訟もない、それでいて万事

◆みんなの学習講座

坂尾レポート

セネカ族は、北アメリカ東部に住んできたイロクオイ連邦を構成する主要部族の一つで、「偉大な丘の人々」を自称する先住民民族です。イロクオイ連邦の中で最西端を守る「西の扉の守護者」として重要な役割を担っていました。

言語：セネカ語（イロクオイ語族）、英語

居住地域（歴史）：オンタリオ湖の南（現在のニューヨーク州西部）

人口：約11,000人（現代）

宗教：ロングハウス宗教、キリスト教系統など

関連部族：モホーク族、オナイダ族、オノンドガ族、カユガ族、タスカローラ族（いずれもイロクオイ連邦）

歴史的背景**イロクオイ連邦（6部族）**の一員として、外交・軍事で大きな影響力を持つ。

アメリカ独立戦争ではイギリス側についた部族が多く、戦後に土地の多くを失うことになった。その後、アメリカ政府との条約や移住政策により、ニューヨーク州（カタラウガス、アレガニー、トナワンダなど）オクラホマ州（セネカ・カユガ族）カナダ・オンタリオ州（グラント・リバー地域）などにコミュニティが形成されている。

モーガン著『古代社会』
司会：坂尾さんからレポートをお願い

がきちんと「こぼれ」と書いています。共産制的世帯と氏族は、老人や病人や戦争傷病者に対する義務をわきまえていて、万人が、平等であり自由。女もそう。奴隷はまだ存在する余地がなく、他部族の抑圧も原則として存在する余地がありませんでした。

します。

坂尾：モーガン著『古代社会』第1篇第二章にイロクオイ族の氏族について、次の様なことが書かれていました。「アメリカ原住民の政治形態の方式は氏族に始まり、連合に終わったが、連合は彼らの政治制度が達した頂点である。その有機的系列は第一に、氏族すなわち共通の氏族名を有する血族体。第二に、胞族すなわちある共通の目的

のために、より高度の連合体に結合した近親種族の集合体。第三に部族すなわち通常胞族に組織されており、その全員がすべて同じ方言を語る種族の集合体。第四に、その成員はそれぞれ同一母語の方言を話すところの部族の連合体である。それは結局、政治的社会または国家から区別されたものとしての氏族社会を招来させた。この両者の差異は広くまた根本的である。アメリカが発見された時そこには政治的社会も、市民も、国家も、またいかなる文明も存在しなかった。最高のアメリカ・インディアン部族と文明の開始との間には、文明なる語が正当に理解される限りにおいては、一つの完全な種族時代が介在した」

次に、母権性の氏族から胞族が発生し、部族となつてゆく過程が書かれています。

そして、部族から連合体へ進み、国家が発生する前段まで書かれています。

す。貧乏人や困窮者のありえない無階級の原始共產制は崩壊しました。階級社会への移行は、「搾取され抑圧される大多数の者の犠牲による、ごく少数者の発展以外のものでは決してなかった」と。

氏族→胞族→部族→連合体

坂尾…レポートをA Iに質問したら、階級闘争は、氏族→胞族→部族→連合体という階層を生み出すと答えました。星野…母親中心だからね。

林…結局母親が子供産むから、誰の子供と言っても母親の子供。雑婚の前は、兄弟姉妹の結婚相手はたくさんいたんですね。

星野…雑婚でなくなってきたわけですね。

坂尾…氏族の酋長は選挙で選ばれた役職だから、罷免も自由。すぐ首に出来る事です。財産は母系、氏族会議は完全な民主主義制です。みんな選挙権を

持っています。

アメリカ・インディアン

坂尾…エンゲルスは、このイロクオイ連邦の社会を、原始共產主義の典型例として挙げていると思います。

次に、母権性の氏族から胞族が発生し、部族となつてゆく過程が述べられています。そして、原始共產制だったという中身が詳しく書いてあります。和田…素朴な質問ですが、モーガンが発見したインディアン氏族制度つて、ギリシャローマ時代と同じような関係が、アメリカ・インディアンにも残っていたのを発見したんですね。

星野…モーガンはいろいろな部族が集まって、一つの集落を形勢したと。たしか、400年続いたと書いてあると思っただけ。

和田…何でアメリカ・インディアンはそういう氏族制度が残ってたのかな。

坂尾…アメリカ・インディアンをモー

ガンが研究したら、そういうことでした。結婚相手は、別のところから連れてくる事を発見しました。

和田…いつの時代のこと。

林…19世紀つて書いてあります。

崩壊の原因

星野…目の色が違う人が来たわけですから、インディアンは先頭に立つてアメリカ人と戦争するけど、酋長はあくまでも象徴だから闘いの責任者ではないんですね。

アメリカ大陸つて広大でしょ。だから争わなくていい氏族がずっとその時代の中で生きていたんです。争う事がなかったから、長い間消滅しなかったんですね。

坂尾…最後に氏族社会が崩壊するのは戦争だったと書いてあります。つまり、独立戦争でイロクオイ連邦は分裂し、多くがイギリス側に付き独立軍に負けました。そして南北戦争では各部族は南と

◆みんなの学習講座



イロクオイ族の部落

北、中立に分かれ、戦後はアメリカ合衆国の領土拡大で各民族は西部へと追いやられていった。

星野…白人だとかね。

菊地…新しい、文明的な、階級社会をひらくものとして、いやしい所有欲、獸的な享樂欲、けがらわしい吝嗇(り

んしよく)過度に物惜しみすること(けち)、共同所有物の利己的な略奪であるとして、うちたおすものは「窃盗、暴行、奸計、裏切り」であると書かれています。何回も読んで、これだけ平和だったのになんでこうなっちゃうのかなって。最後のところすごく気になりました。

レポートについて

司会…最後に皆さんのレポートは、だいたい同じようなところをレポートしていました。

それではレポートについてお互いに話し合いたいと思います。

坂尾…学習の仕方として、労働大学の中央講座で故坂生学長から、いつも「学習の範囲をA4用紙(約900字)1枚にまとめてこい」と言われてきました。レポートの書き方として、与えられた範囲を越えないという事です。

A Iに質問して回答を見ると、大

事などところとか共通していると思いました。

星野…私は書いてある文章(テキスト)を自分の言葉にしてレポートしています。

秋島…坂尾さんが崩壊の原因ってレポートに書いてあったけど、私は戦争だけだとは思わなかった。裏切りなどの問題とか、生産力の発展だとかね。

部外関係の複雑さについて坂尾さんがA Iに聞いたことだけど、そういうことがあったのも知る事が出来ました。

司会…『起源』の第三章でレポートを通していろいろと話し合い、学び合う事が出来ました。

次回は「第四章 ギリシャの氏族」について学習します。「イロクオイ人の氏族」との違いが楽しみです。

*文中にインディアン等差別用語が出てきますが、原本のまま記載しておりますので「理解をお願いいたします」。